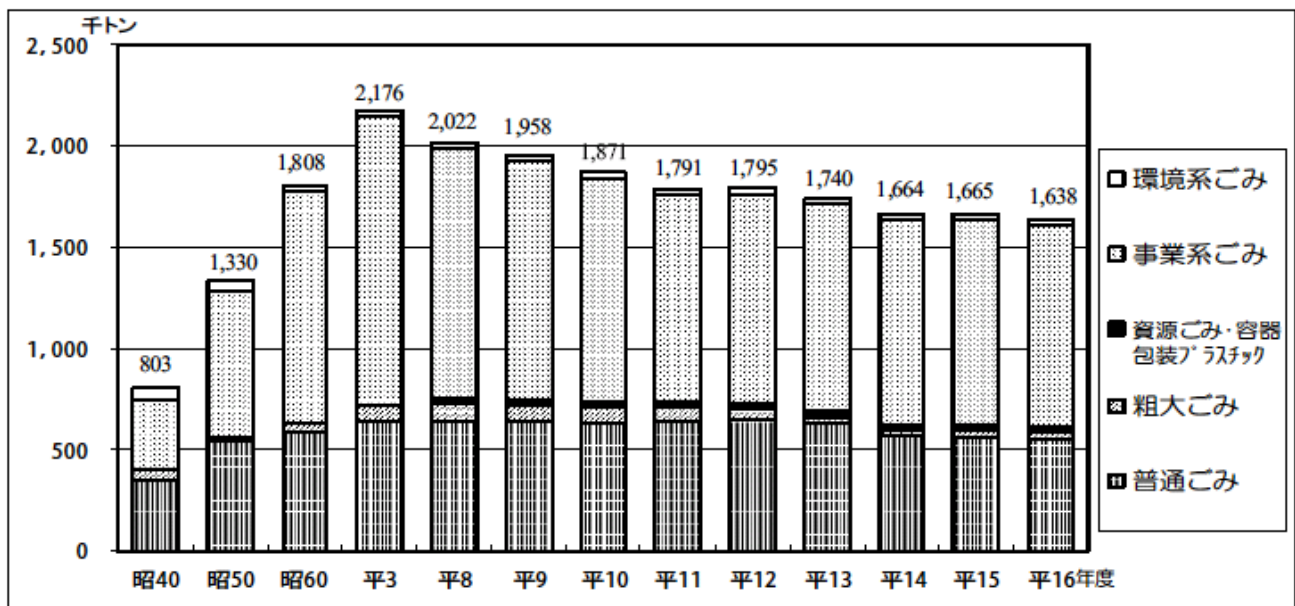


ごみをめぐる常識！非常識？

ごみ減量が呼びかけられて、ごみは減っているのでしょうか？ 下のグラフ(排出量)をご覧ください。あの大阪市でさえ、ここ数年着実に減っています。

さらに、大阪市は2010年に147万トンを目標にすると今年2月に「一般廃棄物処理基本計画」で定めています。もちろんこれでよしとするわけにはいきません。

図7-1-1 大阪市のごみ（一般廃棄物）の排出状況



大阪市のごみの特徴は、上のグラフでも明らかなように事業系ごみが多いことです。

ごみの量を一人一日あたりで比較してみると、家庭系の普通ごみは、大阪市 667 グラムで、大阪府平均 665 グラムと差はありません。ところが、事業系ごみは、1042 グラムで、大阪府平均 592 グラムを大きく上回っています。住民一人当たりで計算するとき、昼間働きに集まる人口がカウントされていないのでやむをえない面もあるのですが、事業系ごみをいかに減らすかが大阪市にとっての課題で、それに成功すればまだまだごみは減らせるのです。

グラフにはありませんが、焼却量で見ても、2000年度が176.9万トンであったのに対し、2004年度は160.7万トンに、約1割も減っています。

さて、ではごみ減量時代に焼却工場はどうあるべきなのでしょう。ごみ量が右肩上がりが増えていた時代には増設が繰り返されてきましたが、能力的に既設炉で余るかもしれない？ 仮に多額の税金で建設する場合でも、稼働開始の年以降も毎年ごみが減るとしたら、過大な施設を建設したことになるのか？ 今までのやり方が通用しないので、行政の担当者も悩んでいるのではないのでしょうか。そういう今こそ、市民がイニシアティブを発揮して、自ら決める時であるはず。まずは現実をしっかりとつかむところからスタートです。